

「保育指導技術演習Ⅰ」の授業の紹介

コロナ禍の影響で、「保育指導技術演習Ⅰ」の授業も対面とオンラインとの併用になっています。今回は、対面とオンラインを併用して行っている授業の様子を紹介します。

「保育指導技術」というと、「ケンカの仲裁の仕方」とか「子どもに対する注意の仕方」などがまずイメージされるかもしれませんが。そうした直接的な援助技術についても学びますが、基本となるのは、保育を行うにあたって必要とされる基本的な方法や技術です。

2021年度の4月～5月の授業では、季節の題材である「こいのぼりの制作」をテーマに学びました。学習の流れは以下の通りです。

授業の流れ

1. 教材研究をする
2. 材料を用意し、試作品をつくる
3. 他の受講生の試作品を鑑賞する
4. いろいろな年齢の作品を鑑賞する
5. 「導入」の方法を考える
6. 必要な援助や配慮を考える
7. 指導計画を作成する



1歳児のこいのぼり

5歳児のこいのぼり

いろいろなこいのぼりのアイデアがあがってきて、それぞれに「どこが楽しいか、工夫しているか」考えました。



受講生の相互コメント

緩衝材の素材を生かして、透明感のあるこいのぼりに仕上がっていることが良いと思いました。素材が工夫されているので、興味を持って制作に取り組めると思います。

袋の素材を生かして、すごい発想だと思いました。袋に絵を描くので、子どもでもできると思うのでいいと思いました。

絵の具を使って自由に描いていて、とても綺麗な感じになっていていいなと思いました。自分の好きなものを描けるのはとても良いと思いました。

現在は、指導計画の作成に入っています。保育所・幼稚園・こども園には、「日案」とか「部分保育案」と言われる指導計画があり、その作成は慣れない間はなかなか大変です。本演習では、基本的な指導計画作成の仕方を学び、実際に作成・修正を行っています。

保育指導案の書き方

本時の保育のねらいを実現するための意図的な環境構成や指導・援助について記述します。
例「○○な活動を行いたいことで、または△△な環境構成を準備したことによって、Ａさんを～する姿にしたい。」「～な環境を設定することで、後かたづけを主体的に取り組めるような姿にしたい。」「～という環境を設定することでＢさんとＣさんがかわりを持ち、学級全体が一つの集団として大きく遊ぶことができるようにする。」

活動名から本時の内容が具体的にイメージできるように。

「活動」にどんな教育的意味があるのか。また、環境設定が、乳幼児の特性に照らし、いかにふさわしいものであるかを記入します。

〇〇指導案
指導者 ○○○○
○歳児（ 名 ）

- 活動名
- 活動のねらい
- 幼児の姿態
- 本時について
- 本時のねらい

具体的によく分かるように、乳幼児の姿でイメージします。
たとえば……
「ルールを理解し体を動かして集団で遊ぶ楽しさを味わう。」
には、二つの要素があります。
①ルールを理解すること
②集団で遊ぶ楽しさを体験させる
大切なことはクラスの実態に合わせ、1つの要素にしほり込むことです。
「鬼ごっこ遊びを通して、約束を守る楽しいことに気がかてる。」がねらいとしてふさわしいでしょう。
ねらいを要領するために活動も精選します。

ねらいから見ると、自分のクラスの乳幼児たちがどんな実態なのか、記入します。
乳幼児の伸ばしたい面や、今、指導しなければならないことなど、本活動の必要性を生み出す重要なものです。

活動の様子	保育者の指導・留意点
・乳幼児の手形される活動	○保育者の具体的な指導・援助を記入します。

自分の働きかけや環境設定によって、一人一人がどのように活動するのか、具体的にイメージしながら記入します。あらゆる場合を思い描き、ねらいに基づいた環境の再構成まで具体的に考えることが、教師としての責任どころです。
「教育書がない幼児教育では、環境構成が教科書である。」「様々な手帳をポケットに入れておく。」

部分保育指導案（ ）歳児

時間	幼児の活動と環境設定	保育者の指導・援助	指導上の留意点
10:00			

はじめは大変でも、少しずつ慣れて、保育実習・教育実習までには少しずつ作成の仕方がわかってきます。「子どもたちといっしょに楽しい活動をしたい！」という思いをもって、みんなで学んでいます。